

救急医療施設における急性カフェイン中毒の実態に関する 研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：平成 29 年 8 月 2 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日

〔研究背景〕 帝京大学医学部附属病院救命救急センターでは、このたび、日本中毒学会事例調査・研究委員会の活動の一環として『救急医療施設における急性カフェイン中毒の実態調査』を全国 100 の施設と共同で研究を行うこととなりました。

〔研究目的〕 救急医療施設に搬送された急性カフェイン中毒患者の背景、臨床症状、治療経過、予後などを集積・解析することを目的としています。

〔研究意義〕 本研究から高濃度のカフェインを含有する製品の危険性が明らかになれば、日本中毒学会から厚生労働省などを通じて注意喚起する根拠となります。

〔対象・研究方法〕 調査対象になるのは、2011 年 1 月 1 日から 2016 年 3 月 31 日までに急性カフェイン中毒により帝京大学医学部附属病院救命救急センターに搬送された患者様です。個人を特定できる情報を除外した形で、診療記録からデータを抽出して登録を行います。抽出するデータ項目は、年齢、性別、臨床症状、治療経過、予後などです。診療記録のデータのみを使用する調査ですので、患者様に負担が生じることはありません。登録したデータは、他の 100 施設から同様に送られてきたデータとともに埼玉医科大学病院 ER・中毒センターにて集計、解析を行います。

〔研究機関名〕 埼玉医科大学病院 ER・中毒センターが中心となって実施する多施設共同研究です。帝京大学医学部附属病院のほか、全国から約 100 施設が参加して行っています。

〔個人情報の取り扱い〕 データは匿名化（個人が特定できる情報を除外）した形で登録されていますので、個人が特定されることはありません。データは、研究期間中（2016 年 1 月から 2018 年 3 月）は、埼玉医科大学病院 ER・中毒センターにて研究責任者のもとで厳重に管理され、研究終了後に紙媒体の資料はシュレッダーにて廃棄され、電子データは匿名化した状態でなるべく長期間保存されます。また、今回の研究で得られた結果に関しては、医学的な専門学会や専門雑誌などで報告されることがあります。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：帝京大学医学部救急医学講座主任教授 坂本哲也

研究分担者：帝京大学医学部救急医学講座助手 佐々木勝教

住所：板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211(代表) [内線 33129]